

④2にぎわい創造活性化施設整備事業 (楯岡高校跡地利活用施設改修事業)

受賞機関 村山市

キーワード つながる にぎわう Link MURAYAMA

全建賞審査委員会の評価ポイント

廃校後の施設を活用し、中心市街地の再生と経済効果の創出を目指した新たな拠点施設として蘇らせる改修事業。市民会議を設置し、丁寧に議論を重ね計画を進行。既存施設の雰囲気を活かしたコリドーの設置により施設間の交流を促進し、にぎわいと経済効果を生み出す新拠点として評価された。

1. はじめに

村山市は、山形県中央部に位置し、東西を山々に囲まれ、中央を最上川が蛇行する自然豊かなまちである。人口は約2万2千人で、当市においても少子高齢化が進行している。今回、このプロジェクトの対象になった山形県立楯岡高等学校は、平成28年3月に閉校した。その跡地は、当市の中心市街地にある約36,000㎡の敷地で、JR村山駅からも徒歩圏内という立地のため、空洞化を防ぐには大きな課題であった。

2. 事業の概要

跡地利活用の検討に当たり、「市民会議」を立ち上げ、市民からの意見や提案をもとに議論を重ねた。具体的な利活用方針については、「跡地利活用ワーキングチーム」を構成し検討を進め、最終的に「楯岡高校跡地利活用基本構想」を策定した。

実施設計業務については、基本構想に基づき、公募型プロポーザル方式により改修事業の設計事業者を選定した。ワーキングチームとともにワークショップ等を重ね、施設に求める機能や必要な設備について、綿密に検討を進めた。

令和2年10月から校舎の不用部分の解体に着手し、令和3年4月から本格的な改修工事を開始した。主体工事、電気・機械設備工事、防犯対策、メディカルフィットネス施設、屋内広場、備蓄倉庫、防災緑地広場など、様々な分野で工事を発注し、改修を進めた。総工費は、約20億円で、国の補助金などを活用しながら整備を進めることができた。

改修工事と並行し、関心のある事業者向けに内覧や交渉を進め、施設に入居する事業者の公募を行った。その結果、令和4年7月の施設オープン時は、15の入居事業者でスタートし、現在は、20の事業者が入居しており満室状態である。



自然と交流が生まれるコリドーと中央広場の様子

3. 事業の成果

施設オープン後は、様々な利用者が集い、働く人が通い、交流が生まれる場となった。特に、施設の中心的な機能であるリビング（コミュニティスペース）では、目的や年代を問わず多くの方々が集い、子どもたちが勉強をしている傍らで大人が仕事に取り組む光景は、この施設ならではの特徴である。また、テナント部門に入居している業種は、飲食店、設計事務所、IT関連、イベント企画、マッサージ、フィットネス、ゲストハウス、コインランドリーなど多岐にわたる。この施設内で働いている人の数は50名を超え、廃校した施設は新たな「なりわい」を生み出す場所としても蘇っている。



施設の顔でありにぎわいを生むスペース「リビング」

4. おわりに

オープンから2年8ヵ月が経過した昨年、来館者数は20万人を突破した。子どもたちの姿が消えた廃校施設が、これまでに関わった方々の様々な思いを継承し、新たなにぎわいを創出する施設へと生まれ変わった。このにぎわいを施設だけに留めず、駅前や周辺商店街にも広げるため、関連する団体との連携を深めていく考えである。

賛助会員 村山電気工業(株)